



芝小だより

10月号

令和5年9月29日
発行者 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
[FAX:03-3456-3071](tel:03-3456-3071)

「体力・運動能力の向上にむけて」

校長 川原 哲郎

季節は秋。さわやかな気候のため、〇〇の秋とよく言われるように、読書やスポーツ、芸術、食欲など〇〇にはいろいろな言葉が入ります。しかし、今年は9月中旬を過ぎても休み時間に「今日は暑さ指数が危険となっているので、内遊びにします」という放送を入れなくてはいけないほど、残暑が厳しい状態でした。本来なら、休み時間や体育の時間に思い切り校庭を走り回り気持ちよく運動ができるはずなのですが、できない日がありました。スポーツの秋には少し厳しい9月でした。

「体力の向上」これは、港区教育委員会の重点項目にもなっており、芝小も子供たちの体力向上を目指して教育活動を行っています。コロナ禍で子供の体力が低下したと言われています。先日、1学期に行った「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果が出ました。東京都の平均や全国の平均と比べてみると、芝小の児童の体力や運動能力の特徴や課題が見えてきました。学年や男女によっても差はありますが、全体的に握力と長座体前屈は全国平均より高くなっていました。一方で、反復横跳びやソフトボール投げは、全国平均より低い値が出ており、特にソフトボール投げは、全学年、男女ともに全国平均よりかなり低い結果でした。俊敏性や投力に課題があることが分かりました。

9月20日、6年生のラグビー教室がありました。東京サントリーサンゴリアスの選手の方などから、ラグビーのタックルやトライ、キック、パスなどを教えていただき、体験しました。初めは、恐る恐るタックルをしていた子供たちも、回を重ねると勢いよくできるようになり、豪快にトライをする子もいました。選手のロングパスやハイパントなども見せていただき、本物のすごさを感じていました。ラグビーは初めての子がほとんどでしたが、体験をして楽しさを感じた子が多くいました。9月25日には、プロなわとびプレーヤーの方を招いてなわとび教室を行いました。子供たちには馴染みのあるなわとびですが、デモンストレーションでプロが見せてくれた数々の技に、子供たちの歓声が起こりました。その後、学年ごとになわとびの基本やなわを使ったいろいろな技などを教えていただき、楽しく体を動かしました。

体力の向上、運動能力の向上には、運動することの楽しさを感じる、いろいろな体の動かし方を体験すること、そして日常的に体を動かすことが大切だと考えます。10月は「なわとび週間」があります。なわとび教室で教わったことなどを参考にしながら、子供たちが主体的に取り組んでいけるようにしていきたいと思います。また、中休みには学年ごとにボルダリングを行うこともできます。引き続き、休み時間の外遊びの奨励、体育の授業の工夫、改善を行うなど、子供たちが楽しく体を動かすことができるようにしていきます。

10月。残暑もおさまり、スポーツの秋にふさわしい気候になってくることでしょう。ぜひ、御家庭でも子供たちと一緒に体を動かす機会をつくり体力・運動能力の向上、そして健康増進にむけて取り組んでみてください。

10月生活目標「落ち着いた生活しよう」

「みんなが気持ちよく学校生活を送るために」

一人一人が気持ちよく学校生活を送るためには、一人一人が「学校のきまりを守る」ことがとても大切です。時間を守ること、挨拶をすること、言葉遣いに気を付けること、静かに授業を受けること、きちんと掃除をすることなどを意識していくと、基本的な生活習慣が身に付いていきます。生活習慣を確立するためには日々の行動の積み重ねが重要です。

学校はみんなが集まって学習する場所です。落ち着いた学校生活を送れるように、規則正しく、きまりを守って生活できるよう指導します。

(生活指導部 佐藤 知弘)

学びの部屋

「見方や感じ方を深める」

図工の活動の一つに「鑑賞する活動」があります。これは、作品などを見たり、友人と話し合ったりする活動を通して、一人一人の、思考力・判断力・表現力を伸ばし、それぞれの見方や感じ方を深める学習活動です。鑑賞の対象は、美術作品だけに限らず、身近な石や葉などの自然物や、互いの作品も含まれるので、図工の中で常に行われています。

今年度、3～6年生は、都内の美術館に校外学習に行きます。学芸員の方との対話的な鑑賞を通して、作品のよさや面白さを感じ、自分なりの見方や感じ方を深めてほしいと思います。

(図画工作科 松崎 直子)